

棚尾地区まちづくり事業

平成 29 年 3 月 23 日（木）19 時～

棚尾公民館 3 階

第 58 回 棚尾の歴史を語る会 次第

1 前回までのテーマに関する参考意見

レールパークの歴史 など

2 テーマ：「毘沙門通りの歴史」

説明（磯貝国雄）

出席者による補足説明、感想など

3 連絡事項・情報交換など

第 11 回史跡めぐり 今回のテーマ：「レールパークをめぐる」

本年度までに完成した、大浜口広場から棚尾広場までをめぐる。

日時 : 4 月 2 日（日曜日）10 時～11 時頃（雨天決行）

集合場所：大浜口広場（源氏橋西）

4 次回日程

第 59 回棚尾の歴史を語る会 平成 29 年 5 月 24 日（水）午後 7 時から

テーマ：歴史散策 3「達吉のふるさと」

「毘沙門通りの歴史」

1 要旨

《火の見やぐら》

消防設備充実の一環として大正 12 年（1923）に建てられ、永年にわたりまちを火災から守っている。望楼の柵はローマ字で「TANAO」と造られ、モダンな姿は地区のシンボルであり、自慢である。

《棚尾三寺参り》

（妙福寺）

棚尾は志貴毘沙門天妙福寺の門前町として栄えている。毘沙門天は聖徳太子の御作といわれ、大和志貴山朝護孫子寺及び京都鞍馬寺と共に「日本三体毘沙門天」の一つと云われている。又、三河七福神の一つでもあり、毎月 3 日の縁日には多くの参詣者で賑わう。

浄土宗西山深草派妙福寺のご本尊「金銅阿弥陀如来像」は備後国福山城主水野勝成の家来浅沼作兵衛が江戸時代に寄進したと云われている。

（安専寺）

平安時代の 1016 年に創建され、昨年千年を迎えた古い寺である。戦時中に金属供出された江戸時代の梵鐘が平成 23 年（2011）に帰ってきた。

（光輪寺）

大きな屋根がどっしり構える光輪寺は、明治維新では歴代の住職が、この地方の中心となって活躍した由緒あるお寺である。その後も、俳人高浜虚子が二度訪れ棚尾俳壇隆盛の地となるなど、文化的にも数多くの功績を残している。

2 毘沙門通りの沿革

（1）江戸時代の状況

毘沙門天の前の道路は通称「毘沙門通り」と呼ばれている。昔からの道路であり、妙福寺前付近は北道（きたみち）通りと称していた。光輪寺交差点の光輪寺角は、お触書きの

高札が建てられた「札の辻」であった。

幅員は平均 3.0m 程であったが、現在のような直線は少なく地形に沿う曲がりくねった道であった。当時の姿を想像する上で参考となるのは、現在の志貴町「折戸の坂」から「堀切地蔵」までの区間である。この道路は毘沙門通りの続きであり、岡崎街道と称していたところで昔の様子を偲ぶことができる。

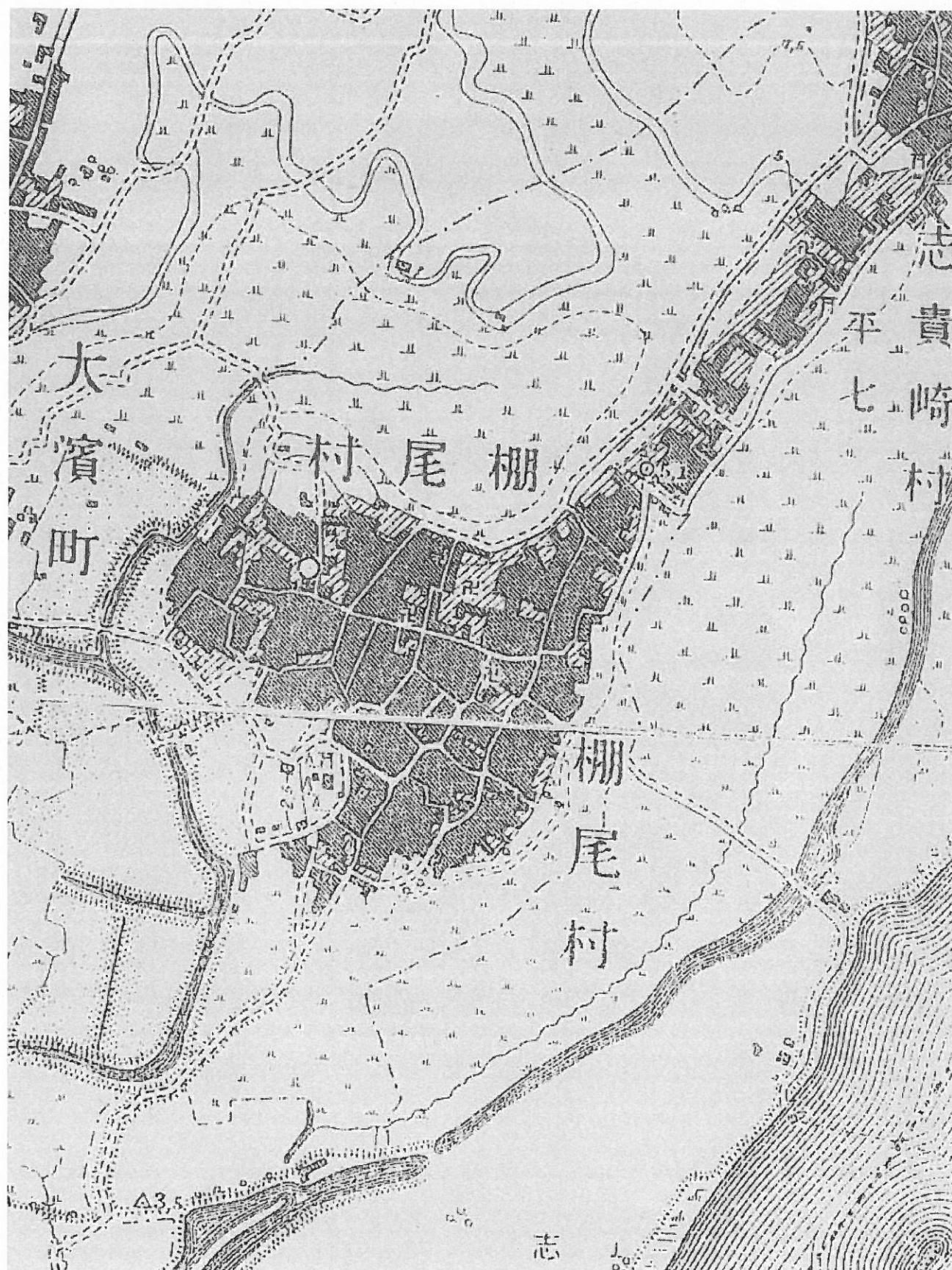
(2) 明治の拡幅

明治 24 年（1891）の濃尾地震後、3.6m に拡幅された。又、大浜との接続は、それまで現在の大浜口広場付近に橋が架かっていたのを、北に移動して、現在の源氏橋を通る線形に変更された。

(3) 昭和の拡幅

昭和に入り、拡幅工事が始まり昭和 8 年頃に完成した。これが現在の道路であり、その後における棚尾発展の基盤となった。平均幅員は 9.0m である。又、併せて以前は、折戸の坂に向かい、平岩鉄工所北西でクランクしていたのを、道路元標から平岩鉄工所南西まで（つまり安専寺の北の区間）が直線で結ばれたのもこの時である。

参考図面 明治23年(1890)の地図



3 火の見やぐら

大正 12 年 (1923 年) 消防設備整備として建造された。まちの中心に有り、永年にわたって地区を火災から守っている。地元の平岩鉄工所が建設し、設計・施工責任者の伊比丑松は入社前、豊田佐吉と同じ職場で働き、佐吉の後継者であった優秀な技術者である。

高さは 70 尺 (21m)。以前は中段に半鐘があった。現在も地元消防団のホース干し等に活躍すると同時に地区のシンボルである。望楼上の柵はローマ字で「TANAO」と造られており、そのモダンな姿は、地区の自慢である。

(1) 火の見やぐら落成式

ア 開催年月日

大正 12 年 3 月 2 日

イ 一日の進行

午前 9 時 10 分 来賓大浜港駅着 高等来賓ハ自動車ニテ休憩所 (古源)

其他ノ来賓消防署階上ニ休憩所

午前 10 時 竣工式 (約 30 分)

午前 11 時 演習検閲式 小学校運動場 (約 2 時間)

午後 1 時 昼食 来賓作法室

午後 2 時 講堂 (約 1 時間)

午後 3 時 講演 (2 時間)

午後 7 時 社会教化活動写真 (妙福寺境内)

ウ 落成式における演説草稿

(ア) 工事報告

棚尾村消防組第一部 消防設備不完全ナルニヨリ 大正十一年八月三日総会ニ於テ 火ノ見櫓及唧筒 (ポンプ) 格納庫ノ新設ヲ決議シ 翌日村会ノ承認ヲ求メ 寄付金ニテ支弁スルコトニ決シタレバ 十一月一日ヨリ消防手全員ニテ 寄付勧誘ニ着手シ 尚、貯水井作掘ヲ決議シ 十一月十五日駐在所ヲ移転シ 茲ニ位置ヲ定メ 十二月八日ヨリ工事ニ着手 十二年二月二十八日ヲ以テ竣工ヲ告ゲタリ

火見櫓ハ鉄骨高サ七十尺ニシテ 基礎ハ方十二尺 地下又十二尺ノコンクリトナリ 格納庫ハ間口三間半奥行二間ニテ 木造瓦葺二階建ニシテ 一部ヲ夜警隊詰所

ニ 階上ヲ集会所ナシタリ

貯水井ハ径七尺深二十八尺ニシテ 二ヶ所 此容量三百石以上常ニ貯留ナシ居リ
之レガ工費金四千余円ニシテ 本日マデノ 寄付金総額三千五百余円ト成レリ

右報告ス

大正十二年三月二日 棚尾村消防組 第一部 小頭 石川市郎

(イ) 答辞

棚尾村消防設備工事ヲ竣ヘ 本日ヲトシ之レガ落成式ヲ挙グルニ当リ 警察部長閣下ヲ始メ 貴賓ノ御臨席ヲ辱 (かたじけなく) シタルハ 誠ニ光栄トスル処ナリ
惟ウニ防火タルヤ 国運ノ 肖長ニ関スル重任ナリ 茲ニ本村消防組第一部消防設備
完成ヲ告グ 本組ノ責任ハ愈々重大ナレバ 一層奮励努力シ 国家ノ発展相舛其
職ヲ完セウ事ヲ期待ス 聊ニ蕪辞ヲ述ベ答辞トス

大正十二年三月二日 棚尾村消防組 組頭 長崎重治

(2) 当時の消防組織

総人員 68 名

職 名	職 務 な ど	氏 名	字 名
組頭	1 名	長崎 重治	
副組頭	1 名	太田徳二郎	
小頭	1 名	石川 市郎	
指令官	2 名	三島 清一	森
〃		金原 米作	西山
消防手	63 名		
(伍長)	小 蔭	小澤 與一	中道日影
		井上 與七	屋敷
		杉浦 勝義	屋敷
		三島初太郎	日影
	梯子	杉浦妙治郎	中道
(伍長)	小 蔭・機械	高松注連吉	加須
	梯子	永坂 権一	西山

		成瀬為次郎	日影
	旗・纏	小澤善太郎	加須
	馬簾	金原 又吉	加須
(伍長)	小鳶	小澤 萬作	加須
	大鳶	加藤三四郎	日影
		斎藤 常吉	日影
		永坂仁三郎	加須
		加藤 仙松	日影
(伍長)	小鳶・喇叭	古久根勝次郎	西山
		永坂由太郎	源氏
	ホース持	大楠 藤吉	源氏
	機械・喇叭	鳥居 一松	源氏
		永坂 傳一	西山
(伍長)	ホース車長 小鳶	杉浦 吾市	西山
		長田注連吉	森
		杉浦 志一	森
		金原増太郎	西山
		古久根福松	西山
(伍長)	小鳶	清水 與一	中久根
		榊原正太郎	上屋敷
	籠車係長	石川政次郎	上屋敷
	機械	中根正太郎	上屋敷
(伍長)	小鳶	斎藤勘次郎	森
		小澤 善六	上屋敷
	機械	石川 八郎	森
	大鳶	杉浦佐太郎	森
	大鳶	石川吉五郎	上屋敷

(伍長)	小鳶	芝田甚太郎	森
		斎藤曾四郎	森
	大鳶	榊原吉次郎	森
		三島勇次郎	上屋敷
	ホース持	杉浦松太郎	森
(伍長)	籠車長・小鳶	小澤勇次郎	畑中
	喇叭	小笠原市之助	堀切
	大鳶	小笠原富次郎	堀切
	馬簾	永井権太郎	堀切
		永井彦右衛門	畑中
(伍長)	斧	小笠原初五郎	中久根
	ホース係長	小笠原仁一郎	中久根
		金子光太郎	中久根
		磯貝善太郎	中久根
	大鳶	小笠原白松	中久根
(伍長)	小鳶	斎藤 松蔵	屋敷
		名倉 和吉	屋敷
		斎藤良太郎	屋敷
		斎藤 喜一	中道
	大鳶	石川新治郎	中道
(伍長)	ホース持	永井長次郎	本道
	機械	小笠原金市	本道
	大鳶	長崎徳太郎	中久根
	旗・纏	小笠原妙次郎	後畑
	看護手	坂部武一郎	屋敷
	喇叭卒	斎藤 重助	堀切
	〃	永坂 房吉	森

(3) 棚尾村消防演習計画

演習地 棚尾学校々庭

日時 大正十二年三月二日 午前十一時開始

検閲官 宮本警察部長 鈴川保安課長

審査者 中村警部

消防組人員 第一部 六十八名 第二部 四十五名

検閲演習順序

第一 閱兵式 (校庭)

第二 人員及び服装検査

第三 器具点検

第四 階梯操法

第五 唧筒操法

第六 分列式

第七 水勢試験

休憩昼食

第八 金馬簾及び功労張並び表彰状授与 (講堂)

第九 検閲官訓授講評

第十 来賓祝辞

第十一 村長挨拶

第十二 署長答辞

第十三 閉式ノ辞

(4) 来賓

職 名	氏 名
警察部長	宮本貞三郎
保安課長	鈴川 寿男
学務課長	別宮 秀夫
社会課長	川久保常次郎
県警部	中村清太郎

活弁	稲田 克己
活動技師	
碧海郡長	板津森之助
郡視学	河本 秀雄
県視学	相京 伴信
〃	津島 助三
〃	木村 重正
体育主事	加藤英吉
県属	長谷川義男

4 棚尾三寺参り

棚尾の町は、1165 年前に創建された古刹の毘沙門天・妙福寺の門前町として栄えてきた。併せて、安専寺、光輪寺の 2 寺も古い歴史と輝かしい経歴を持つお寺であり、この三寺はまちの発展を永く支え歩んできた。

(1) 毘沙門天妙福寺

ア 日本三体毘沙門天

志貴毘沙門天は、奈良県志貴山朝護孫子寺、京都鞍馬寺と共に日本三体毘沙門天の一体と言われているが、その由来は次のとおりである。

(志貴毘沙門天王縁起)

飛鳥時代に仏法を篤く信仰した聖徳太子は仏教に理解のない物部守屋を討伐の折、祈念していると毘沙門天が形を現し太子に鎬矢を授けた。太子は仏賊を退治することができたので、喜びのあまり自ら彫刻したのがこの尊像である。

その後平安時代になり、大和の国の志貴左衛門藤原周亮（かねたか）がこの地方の荘園の司となり、この尊像を護持して棚尾に安置し志貴毘沙門天と称した。

イ 三河七福神めぐり

毘沙門天が七福神の一人とされるのは、「佛説毘沙門天功德経」にこの毘沙門天を信じ毎月 3 日にお参りすれば財宝富貴の福利を得ること疑いなしと書かれているためである。

ウ 境内のお堂

弘法堂には三河新四国 88 ヶ所中第 74 番の弘法大師が祀られている。その他病氣平癒の薬師如来及び春日社を始めとする多くの祠堂があり、人々の信仰を集めている。

又、「おびんずる尊」、「抱き地藏尊」も心の拠り所を求める参詣者のパワースポットとなっている。

オ 浄土宗妙福寺

もとは多聞山吉祥院妙福寺と云う天台宗の寺であったが、永禄 3 年（1560）に大檀那生田新左衛門忠兼は、法然上人に帰依し、月翁清白上人（天正 18 年：1590 年示寂）を中興開山として招請、浄土宗西山深草派の寺院になった。

ご本尊の阿弥陀如来像は、備後国福山城主水野日向守勝成の家来浅沼作兵衛の寄進によるものである。

カ まちの文教の中心地

境内に明治 6 年（1873）棚尾小学校が創立された。校舎は今の水屋の場所と庫裏の 2 箇所であった。しかし児童が増え手狭になり、明治 34 年（1901）に現在の春日町へ移転した。

又、戦後の保育園開設や演説会、映画会、盆踊り始め各種団体の集会場として使用され、常にまちの中心地となっている。

(2) 安専寺

創建は平安時代の長和 5 年（1016）と古く、当初は天台宗であったが応仁 2 年（1468）浄土真宗に改宗した。現住職は第 44 世圓智で、千年も続くお寺である。近年、寺宝である蓮如筆六字名号の軸と梵鐘一口が、碧南市の指定有形文化財に指定された。

又、3 代前の住職安藤圓秀は碧南市生れで最初の東京帝国大学生で、卒業後は国文学の教育者として活躍し、一時期母校の助教授などを勤めた秀才である。

(3) 光輪寺

大きな屋根の本堂や門構えなど棚尾の中心に位置するお寺であると同時に多くの輝かしい歴史を持っている。創建時は天台宗総道場なるも、応仁 2 年（1468）浄土真宗に改宗する。現在の住職は第 13 世真諦である。

明治維新では、新政府の重要な役目である教諭使を務めたお寺であった。浄土真宗の宗

教改革運動でも大いに活躍し、文化的に貴重な文献を残している。又、俳人高浜虚子が大正 11 年 12 月と昭和 2 年 9 月の二度にわたり訪れ、棚尾俳壇を全国へ広めるのに貢献するなど、歴代住職はこの地方の文化的指導者が多い。

5 道路元標

道路元標は道路の元点を示す標識で、大正 8 年 (1919) 全国の市町村に各 1 箇所設置された。棚尾村の道路元標は旧字中道 1 番地 (現在の棚尾本町 2 丁目 8 番地) にあった。現行道路法で道路元標設置の規定はなくなり、多くの道路元標が道路の改修などでなくなったが、棚尾村道路元標は棚尾小学校に保存され、平成 25 年に棚尾小学校校門から当初の位置に復帰した。

6 琴平社

源氏町 4 丁目に旧字加須組の崇敬神社である琴平社がある。昔、讃岐の国の船頭であった井上浅右衛門は、江戸への航海の途中で嵐に遭ったが、海の守り神である金毘羅さんを何度もお祈りし、難を逃れることが出来た。その後、助けられた船を頼ってこの地へ移住し、琴平社を建立しお祀りした。

毎年 9 月第 2 日曜日の大祭と正月の新年祭が斎行される。以前の祭礼では福助のお面を着けて踊る「てくすけ踊り」や沿道の家々で等身大に近い人形を飾る「かざりもん」で多いに賑わった。

(1) 琴平社の由緒

祭神 大国主命 崇徳天皇

由緒 往昔 井上浅右エ門と言う人が讃岐国より移住 棚尾村字大ノ内へ一字建立 茲に鎮座奉仕 大正元年より加須組の 13 戸と協議の上崇敬することとなり 大ノ内の字は改組の際加須と改名したと言われ 現在加須の崇敬神社として今日に至る

(2) てくすけ踊りの沿革

ア 昭和 3 年 素人歌舞伎の座頭をしていた斎藤惣太郎が、昭和天皇御大典の際に考案し 琴平社で奉納し、御大典奉祝素人演芸大会一等賞になった。

- イ 昭和 15 年 紀元二千六百年祭で奉納。
- ウ 昭和 35 年 祭礼で映画と福助踊りを有志にて奉納。
- エ 昭和 36 年 祭礼で映画と福助踊りを奉納。大人達三十有余名参加し、盛大だった。
- オ 昭和 39 年 祭礼で映画と福助踊りを有志にて奉納。
- カ 昭和 40 年 祭礼で映画と福助踊りを有志にて奉納予定が大暴風雨のため中止となる。
- キ 昭和 41 年 琴平社大祭並びに琴平会館完成祝賀会開催。余興として福助踊り及びかざりもんを催した。
- ク 昭和 43 年 祭礼で映画と福助踊り。この年から地区役員が中心で奉納。
- ケ 平成元年 福助おどりを柵尾公民館で再現。柵尾商店街振組合青年部（杉浦雅仁代表）がビデオに収める。
- コ 平成 21 年 柵尾小学校 3 年 2 組の児童 36 人が復活。